

SHARP

シャープ社友会 栃木支部会報

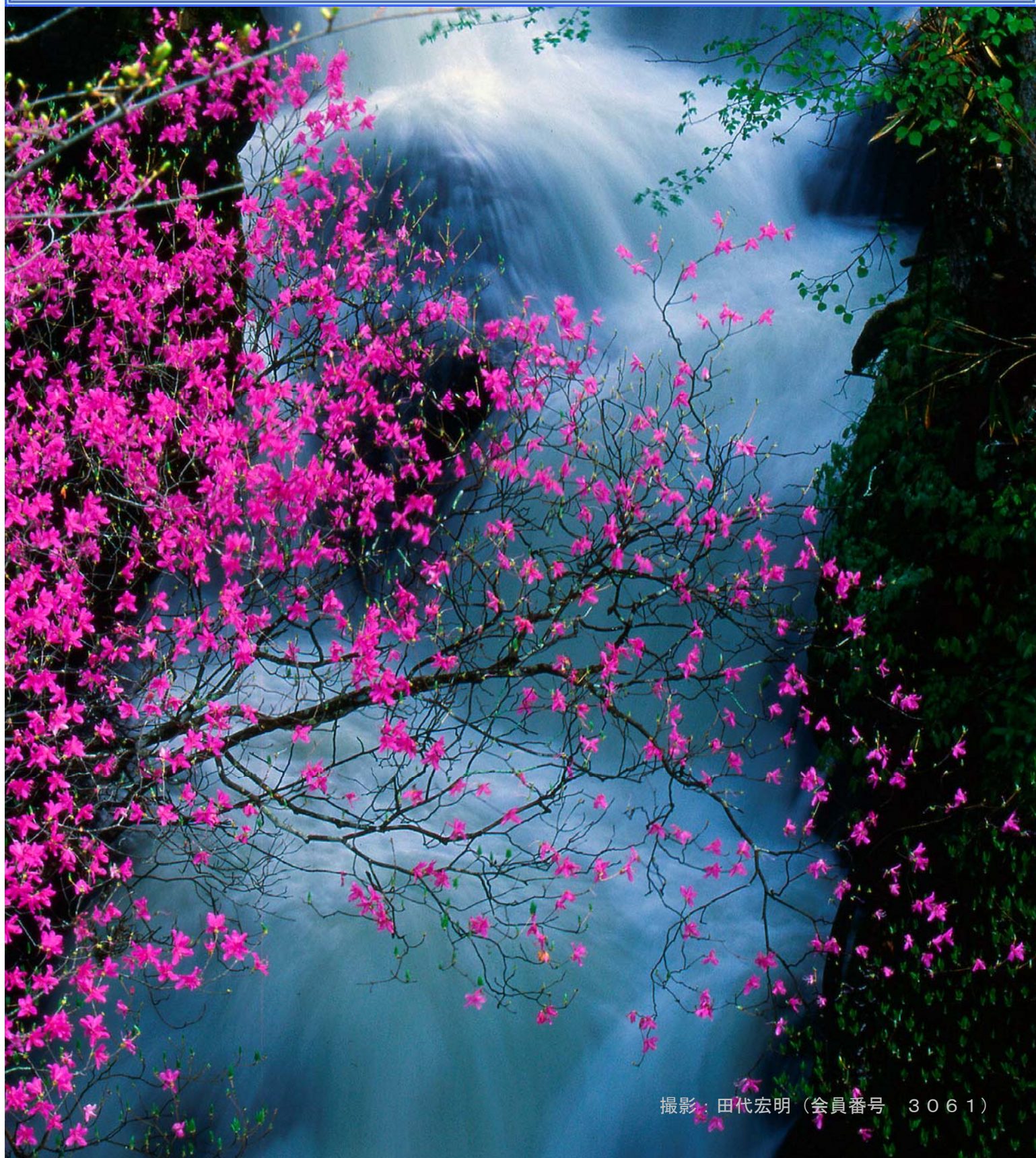
第22号

支部結成20周年記念

nikko

<http://tcg-syayu.web.infoseek.co.jp/index.html>

2008.6.16 発行
発行責任者 岩村 博



撮影：田代宏明（会員番号 3061）

栃木支部結成 二十周年を迎える！

栃木支部長

岩村 博



社友会の皆さんいかがお過ごしでしたか、いつまでも充実した日々でありますようお願いいたします。

栃木支部は今年結成二十周年を迎えます。支部結成当時会員四十六名で発足し、平成二十年六月現在二百七十名と大きな組織に発展してきました。

会員皆様さんのご協力はもちろんの事ですが、会社のご支援に感謝申し上げます。

社友会栃木支部の結成は、総務部と組合との協議が整い結成に向けて検討することになりました。

当時私は総務部に在籍、組合の役員も務めていましたので会則・細則を含め結成に係わる案件を検討してきました。

これから退職する人が増えてくる、何とか社友会をつくりたいという純粋な気持ちで検討に入りま

したが、矢板市の市議会議員の任にもついていたため、自分の選挙のためにつくるのではないかという本部からの声を聞きショックを受けたこともありました。

総会後二十周年記念行事を実施致します。現在二十周年記念行事プロジェクトで具体的検討をしております。あらためてご案内致しますが記念行事の参加をお待ちしております。

平成十九年度具体的活動は「シャープ・グリーンクラブ（SGC）の活動」「サマーフェスティバル・チャリティーバザーの出店」「秋の懇親旅行（バスツアー）の実施」「支部会報（二十周年記念号）の発行」「支部ホームページの充実」等々の活動がออกมาしました。

平成十九年度の行事で「秋の懇親旅行」「新春年賀会」「社友会栃木支部二十周年記念」の取り組みについては、副支部長と幹事で構成する推進委員会を立ち上げ、推進委員会で実施に向けた具体的検討をしてきました。

今年度も毎月定例役員会・幹事会を開催し活動の検討を行い進めています。

また、行事の取り組みについては副支部長・幹事

で構成する推進委員会で実施に向けた具体的検討を行います。

平成二十年度は社友会栃木支部結成二十周年を迎えます。二十周年記念行事を行います。

社会への貢献を支援していくと言うことで、シャープグリーンクラブを推進主体として地球の環境保全活動などボランティア活動の取り組みに参加して行きます。

労働組合栃木支部との連携を持ち、労働組合からの要請についても役員会・幹事会で協議していきま

す。 私たち社友会の会員も年々高齢になってきておりますが自分の健康は自分で管理することは大事であります。健康保険組合からの「メタボリックシンドローム」の特定保健指導については社友会も相談の窓口になります。

会員の皆さんが一人でも多く参加できる行事、ともに楽しく過せる企画等々も取り組んでいきます。私は、社友会のみなさんが楽しく過す日々になれば良いと思っています。

今後も社友会の運営に会員みなさんのご協力をお願い申し上げます。

結成二十周年に寄せて プラスの活動を期待

シャープ社友会

会長 蛇草 實太郎



この度、シャープ社友会の長男とも言うべき栃木支部が結成二十周年を迎えられたことは、栃木支部の皆さんは勿論シャープ社友会の会員みんなの大きな喜びであり、心からお祝い申し上げます。

栃木支部は結成以来、極めて積極的な活動を展開され、数々の困難を乗り越えて、めざましく発展され、成年式とも言える二十周年記念の日を迎えられたことは、浦川現顧問、岩村現支部長を始め、歴代の役員・幹部の皆さんのお喜び、感激はいかばかりかと推察し

ております。

ところで、今の世の中、大変な時代になってきました。正に人類にとって正念場とも言うべき苦難、そして岐路に直面しているのではないのでしょうか。

個人個人だけでなく、色々な多くの集団、国々も自己中心で利己的な思いからの行動がブツカリあつて、トラルブルや争いのニュースの絶え間がありません。また、温暖化問題を始め、色々な形で地球環境破壊の危機が差し迫っています。本当にいやゝな気持ちにさせられることの多い今日このごろです。

そんな中で、私たちは三十年四十年と長い年月、懸命に働いてきて、これからは、明るく楽しく「生き甲斐のある第二の人生」をエンジョイしたいと思うのでありますが・・・どうでしょう。

こんなことを想うと、私は、社友会に入つて色々な活動に参加する中で、長年一緒に苦楽を共にして働き、シャープの釜のめしを分け合ってきた仲間の「絆」は本当に有難いなくと、近頃、強く感じています。そし

て私は、会員の中には、社友会は単なる親睦の会ではなく、活動の中に何かもう一つ欲しいと思っていられる方も少なくないのではないかと思っています。

私は、来年迎える社友会三十周年をめざして「親睦会・プラス」の社友会をめざしたいという思いで、全社友会みなさんの知恵と情報を集めて、この「プラス」を見つけないかと考えています。そしてそのプラスを各支部が各々の支部で適合する形で活動の中に取り入れて頂ければ、一層素晴らしい社友会に成長できると思っています。

この点で、栃木支部では以前から「会員にとって生き甲斐の糧となる会」であることを願って活動していると同じ、感服すると共に栃木支部のその具体的活動内容を是非積極的に本部や各支部に情報発信していただけたら、という願望が沸いてきました。

そして創立二十周年を迎えられた栃木支部が、益々旺盛に活動を展開され、全社友会の牽引的役割を担って頂けたら本当に素晴らしいなあと期待しています。

シャープ社友会・栃木支部

結成二十周年おめでとぅございます

常務取締役

AV・大型液晶事業統轄 兼 AVシステム事業本部長

廣 部 俊 彦



シャープ社友会・栃木支部の皆様には、日頃よりシャープ製品のご愛用並びに栃木工場の事業運営に對しご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

またこの度は、栃木支部結成二十周年を迎えられるとのこと、心よりお慶び申し上げます。

平成元年十月、社友会初めての単独支部として結成され、当初は四十六名だった会員数も今や三〇〇名近くまでになり、ホームページの開設やクラブ活動・環境ボランティア等、幅広い活動を積極的に展開されるなど、そのご盛会ぶりは誠に心強く、喜ばしい限りです。ここまで順調に拡大・発展されましたのも、偏に支部役員・会員皆様方のたゆみない努力の賜物と敬意を表する次第です。

私は、本年四月にAVシステム事業本部の本部長に就任いたしました。今年には栃木工場も操業開始以来

四十年の節目の年であり、このような記念すべき年に就任したことに感慨深いものがあります。

さて、昨今の当社を取り巻く経営環境は、さながら九七、九八年のバブル崩壊時の様相を呈してきております。原油・素材価格の高騰に歯止めがかかる気配はみられず、個人消費もガソリン税の暫定税率復活を受けてさらなる下押しが懸念されるなど、企業の収益性低下への懸念は一段と高まっています。

こうした中、当社は昨年、堺コンビナートの建設、パイオニアや東芝、ソニーとの業務提携の発表で世間の注目を集めました。これら提携は、いずれも両社が強みとする得意領域で協力関係を構築し、経営資源を集中することで厳しいグローバル競争に打ち勝つことを目指したものです。

また、二〇一二年度に迎える創業一〇〇周年という大きな節目に向け、今年度を「新たな成長戦略をスタートさせる年」と位置づけ、売上高三兆六千億円、営業利益千九百五十億円を目標に、全社挙げて取り組んでいるところです。

AVシステム事業においては、昨年、液晶テレビ事業で世界五極生産体制を確立し、事業を大きく拡大することができました。しかしながら一方で、海外事業での利益を上げる仕組みが整備しきれなかった課題を残しました。この先、当社が成長していくためには、これら海外市場での事業拡大が必須であり、そのため

にも、いたずらに規模を追わず、堅実に事業を拡大できる経営の仕組みを早急に構築して参ります。

また、今後ますます需要が高まると予想される薄型テレビ市場とデジタル放送時代の到来に向け、最新の高画質技術やデジタル映像技術を駆使し、新しいデジタルAV商品を創出して参ります。

「ヒトにマネされる商品をつくれ」～早川創業者のこの言葉は、「モノづくりの遺伝子」として皆様方諸先輩によって受け継がれ、「日本初」「世界初」の様々な商品となって結実しました。そのシンボルとも言えるのが、テレビの概念を変えて新しい映像ライフを実現した液晶テレビ「AQUOS」です。

幾多の困難を乗り越え、今日に至った歴史を改めて振り返りながら、「経営理念」「経営信条」のもと全社員が結束を固めて更なる「AQUOS」ブランドの強化と、AVシステム事業本部の存在価値向上に努めて参る所存です。

社友会の皆様におかれましては、この度の二十周年を機に一段と親睦を深められると共に、AVシステム事業本部に対しましても、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、社友会栃木支部の今後ますますのご発展と会員皆様方のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます。結成二十周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

社友会支部結成二十周年を御祝いして

執行委員長

印南 幸裕



シャープ労働組合栃木支部

現在、栃木工場では液晶テレビ「アクオス」の中型テレビの生産で忙しい状況ですが、市場のスピードに合わせた商品開発に加え、急激な円高やドル安への問題点の改善や生産部門の日本における物造りの対応が求められています。これらの対応策や改善策を労使で協議しながら進めて行きたいと考えております。その事が矢板工場の雇用の維持・確保に繋がりますし、矢板市の活性化や発展に繋がって行くものと考え、支部としても努力していく所存です。

最後になりますが、社友会の会員の皆様も二百六十名を超えるおおきな組織になり、地域社会におきましても「頼られる」存在になってきております。ますますのご発展と会員皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

矢板市議会議員

中村 ひさのぶ

社友会栃木支部の創立二十周年を迎えられた事に心よりお慶びを申し上げますと共に、この間、会の結成運営に携わってこられました多くの役員の皆様、会員の皆様に心より敬意を表わします。

当初四十六名でスタートした会員も年ごとに増え現在では二百六十名を超え、多彩な活動を通し共にシャープで働いた仲間としての絆を保ちながら、地域での活動やサマーフェスティバルへの参加、SGC(シャープ・グリーンクラブ)活動への参加等々、先輩方のご活躍を拝見するに付け、後輩として大変心強くまた、嬉しく思っています。

さて、私も皆様の代表として矢板市議会に送って頂き、六年目を迎えています。この間皆様から多くの情報とアイデアを戴き、議員活動を支えている事に心より御礼申し上げます。国も地方も財政的に厳しく歳入が伸びない中、多くの課題が山積しています。矢板市としても将来の発展に繋がる企業誘致や安心・安全で快適に暮らすことが出来る定住基盤の整備には力を入れていかなければ成りません。一方、民間に出来る事は民間に、「地域で出来る事は地域に御願いし、行財政改革も進めていかなければならないと思っています。皆様のこれまで培ってこられた豊富な経験を、地域のために是非活かして頂きたいと思っています。私も皆様の代表として、皆様が築いてこられましたシャープの名を汚す事の無い様、また、皆様のご期待に応えるべく『夢と笑顔のあるまちづくり』に向け全力投球して参ります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに社友会栃木支部の益々のご発展と会員皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



社友会栃木支部結成二十周年、誠におめでとうございます。日頃は、岩村支部長をはじめ、多くの社友会の皆様には労働組合の活動に対しまして格段のご支援とご協力を頂いている事に心より感謝申し上げます。さて、昨年四月に行われた統一地方選矢板市議会議員選挙におきましては、「中村ひさのぶ」現栃木支部副委員長が二期目の挑戦を致しました。今回は議員定数二十二人を十六人と大幅な定数減に加え六人が落選する選挙戦となり、これまでの経験が通用しない大変厳しい選挙戦となりました。そのような中、社友会の皆様を始め、協力会社、地元泉地区の皆様等多くの皆様から暖かいご支援を頂き活動を進めて参りました。結果につきましてはご承知のように、立派な成績で二期目の当選を果たす事ができました。ご支援を頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

歳 月

顧 問

浦 川 正 司

社友会栃木支部は早くも二十周年の記念行事を迎え、当初四十有余名で発足しましたが今や二百六十名を超えるに至り盛況を呈しています。

これも各幹事の方々が地域会員のお世話を願ひ、会の運営に支障無き様々尽力頂いて居ります事、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

振り返れば私も栃木事業部カラーテレビ工場の建設委員として昭和四十三年二月当地に来ました。あれから早や四十年何をしてきたのかと考えさせられます。現役当時とはともかく、無事に定年を迎え自由時間の社友会に入会出来、会員生活も二十年を迎える年となり、この間何故か役員を拝命し現在に至っています。

振り返りますに、個々それぞれの環境が異なり年齢のバラツキ、健康条件の不安等など、社友会運営に問題を抱えて当初何を企画すべきか悩みました。親睦・懇親のみでは・・・そこで頭と健康の為にと矢板市の史跡探訪を企画しましたがわずかに二回で続かず挫折。その時三好氏よりゴルフ愛好会を創ればと提案があり、当初数名でしたが実施したところ一人二人と同志が増えて現在に至っています。

次に健康増進と仲間のつながりを深める為、歩こう

会を発足し世話役の努力により、近隣各方面に足を伸ばし四季折々の散策を楽しんでおられます。

そして会員相互の情報交換誌を創り、会報として互助活動をしたと企画協力を求めましたが、立ち上げに十年かかり平成十年五月創刊号を発行する事ができて、年二回継続発行していますが、会員皆様の投稿が少なく会報編集の皆さんが苦勞されています。みなさん何か一言でも投稿して頂き楽しい会報が継続できるように協力御願ひします。同時にパソコンの勉強会メビウスクラブも立ち上がり、写真クラブも活発な活動をしています。カラオケクラブも発足予定です。

会員の皆さんに喜ばれる社友会とする為に運営面での協力とご参加を御願ひします。

冒険を恐れぬ心

私もことし喜寿を過ぎましたが頑張つて物事に立ち向かいたいと思っています。

いま誰もが、口にする言葉に老人問題があります。誰もが自然に迎え通らねばならない道ですが、ただ考への持ち方と思っています。私達は過去色々な道を歩いてきたと思います。小道・坂道・山道とそれぞれ目標に向かつて苦難の道であったと思考いたします。今はこ

れらを完歩し、人生の喜びである入学・卒業・結婚・定年と五段階の跳び箱を乗り越えてきました。今度は古希・喜寿・米寿・白寿と階段は続いている。ただこの年になると老人と呼ばれる言葉が耳に入ってきますが、老年は人生第二のスタートで冒険する心を持つことです。年金生活に安定を望むのでは無く何か目標を立てて実践する事だと思っています。私は生涯学習地域ボランティアの道を選び瞬時戸惑い有りましたが、やれば出来ると言ひ聞かせ頑張っています。それとゴルフです。出来る事なら八十歳までは遣りたいと思ひ色々指導を受け目標に向け悦びを感じ人生を楽しんでいます。

【老いゆけよ、我と共に 最善はこれからだ】

この言葉 冒険を忘れた時こそ死である。

恐れずに何事も挑戦する心を持って残された人生を・生きたい



支部設立の頃

藤田 洋浩



社友会栃木支部結成二十周年
おめでとうございます。月日の経つのは早いもので、栃木でお世話になってから二十年が経過した訳ですね。

結成当時木村支部長他四十数名であった会員も現在では二百七十名になっていると聞いています。いろいろな面でご活躍されている様子をホームページで拝見し、懐かしい方々のお名前や写真を見て、あの頃を思い出しています。

あれは確か、労組主催の「定年退職者の集い」に池沢委員長のお招きで、お祝いの挨拶に行った時、多くの皆さんから「定年後も会社に来て話しあえるような場所がほしい」との要望を聞き、これから増えてゆく定年退職者の皆さんに、会社のいろいろな取り組み（例えばバイシャープやサマーフェスティバル、若い寮生の縁談の紹介等）にも協力いただきたいし、又退職者相互の親睦のためにも支部結成は必要であると考え、労使が共に真剣に協議したのを思い出しています。

結成趣意書を作成、社友会本部（本社）へ現支部長の岩村さん（当時は市会議員・労組副委員長）と共にお願いに行きました。本部役員から冗談ボク「岩村さんの後援会ですか」と言われ、岩村さんが怒り出したこともありましたが、その後趣意をご理解いただき結成の運びとなりました。

最大の課題は事業所内に社友会室を作ること、当時資金が無く事業本部だけでなく本社の援助も不可欠で

した。皆さんからは折角作るのだから少し広く、和室が良い、食堂内で売店の近くが良いとだんだん希望は膨らみ、資金はないしで苦労をしたのを懐かしく思い出しています。今も社友会室はその場所にあると聞きます。この部屋が社友会員の活動の拠点であり、親睦の場所であることをうれしく思います。

その後、縁あって「社友会九州支部結成」にも携わりましたが栃木での経験が大変役に立ちました。私も定年になり七年を経過しました。社友会は勿論のこと、奈良市や地域のボランティア等十六のインホームグループに属し、事務局を担当したりして楽しく元気に活動しています。

結成二十周年を機に、今後会員皆様がたの益々のご活躍と栃木支部の更なる発展を祈念いたしております。

（結成当時 総務部長）

気持ちの切り所として

喜多村 俊弘

栃木支部発足当時の思い出や逸話があれば機関誌「日光」に寄稿をとお願い戴き、二十年前に思いを馳せてみましたが、昨今の気持ちとは違い四十二歳の現役真っ只中、当時は色んな事に関わらなければならず、単なる仕事のひとつとして忙しく取り組んだ事が思い出されます。

会社で初めて社友会の支部を創る意味・具体的な進め方等、労組の委員長（当時、池沢三夫氏）と協議を重ね、特にまだ定年退職者が少なかった当時「加入を希望する人がどの程度あるのか」が支部発足の最大ポイントでしたが、社員退職者が少なく準社員退職者が殆どの状況の中、退職者に何度も社友会加入促進の手紙を差し上げたことを思い出します。

準社員は、矢板もしくは近隣出身者が多く、退職後も地域との付き合いは当たり前で、退職後は企業から解放され「や」と農業や地域活動に自由に取り組める。」と思っている人が多く居られました。「同じ釜の飯を食った者」という意識は、大阪（全国各地出身者含む）から矢板に転勤して来た人とは差が大きかったのではないのでしょうか。

やとと五十名弱（四十七名だったかな？）の加入者を募り発足総会の運びとなった事が懐かしく思い出されます。

平成元年十月に開催された発足総会では社友会（本部）から古藪会長にご来賓戴き、稲見顧問・木村支部長をはじめとする支部体制と支部規約や会計規約及び初年度方針が確立され、社友会栃木支部の歴史が始まることとなったのは二十年前のことだったんですね。

ここで思い起こされる逸話を紹介させていただきます。

栃木工場初期の生産部やテレビ事業部本部長室長を勤められた原田幹夫氏が、一九七五年六月ごろお話された「将来の栃木工場事業展開のポイント」について、事業は種々の要因で拡大や縮小を余儀なくされるが、新しい事業は簡単には成功しない。粘り強く諦めずに取り組む必要があるが、その種には人材を育成し確保する必要がある。（当時はビデオ生産が始まる前で栃木が一番苦しかった頃？）将来に亘り必要な人材を確保するためには協力工場や子会社を含めて人材の収容を図らねばならない。という話であるが、そのときは余り深く気に留めなかったが人材重視の良い話だったのではないのでしょうか。

今、社友会の栃木支部発足を回顧すると同時に、故郷を離れ、会社生活に慣れた企業人も定年後、気持ちのよりどころとするのは「同じ釜の飯……」「気心の知れた仲間」が集える社友会が有ってよかった、と思うのは私だけでしょうか？

社友会栃木支部 20年のあゆみ

平成元年（1989） 会員数：46名

- 10月 ・ 栃木支部設立総会を開催
本部より古藪会長、吉江副会長、事業本部より、新本本部長他4名、
労組より池沢委員長その他多数ご出席をいただく。

平成2年（1990） 会員数：60名

- 3月 ・ 春季業務繁忙の為、会社より生産応援の要望があり会員全員が参加した。
10月 ・ 秋の懇親旅行実施、「箱根—熱海—伊豆周遊の旅」

平成3年（1991） 会員数：62名

- 4月 ・ 第3回総会開催
クラブを発足させる。・史詩探訪会・写真ビデオ同好会・釣り愛好会・竹細工
同好会・囲碁将棋同好会。
10月 ・ 秋の懇親旅行実施 「奥羽・三陸みちのくの旅」

平成4年（1992） 会員数：67名

- 5月 ・ 第4回定期総会開催
10月 ・ 秋の懇親旅行実施（本部と合同）
「箱根周遊とシャープ幕張ビル見学の旅」 13名参加

平成5年（1993） 会員数：66名

- 2月 ・ 新春賀詞交歓会開催 於 グランド平安 37名参加
5月 ・ 第5回定期総会開催 於 グランド平安 40名参加
(6月 広島支部、7月 東京支部 設立)
7月 ・ シャープサマーフェスティバルに招待される。
10月 ・ 秋の懇親旅行実施 「谷川岳—天神平—伊香保温泉の旅」 23名参加

平成6年（1994） 会員数：78名

- 1月 ・ 新春賀詞交歓会実施 於 グランド平安 41名参加
5月 ・ 第6回定期総会開催 於 グランド平安 39名参加
7月 ・ シャープサマーフェスティバルに招待される。
10月 ・ 秋の懇親旅行実施 「甲府—身延山—石和温泉の旅」 35名参加

平成7年（1995） 会員数：81名

- 1月 ・ ハガキによる健康状態調査を実施 （回収率：100%）
良好＝30% 普通＝45% 通院＝25%
2月 ・ 阪神・淡路大震災義援金カンパ実施、下野新聞社へ寄付
・ 新春賀詞交歓会実施 於 大金温泉 37名参加
5月 ・ 第7回定期総会開催 於 グランド平安 47名参加
7月 ・ シャープサマーフェスティバルに社友会チャリティーバザーに出店、売上金を
矢板市福祉協議会へ寄付
10月 ・ シャープ社内報「窓」を袋詰めは社友会が行い会員あて発送。
11月 ・ 秋の懇親旅行実施 「足尾銅山—富弘美術館—老神温泉旅」 27名参加

平成8年（1996） 会員数：88名

- 2月 ・新春賀詞交歓会実施 於 乃木温泉ホテル 30名参加
- 5月 ・第8回定期総会開催 於 グラント平安 46名参加
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 10月 ・社友会本部企画の「三重液晶工場見学会」実施 13名参加
- ・秋の懇親旅行実施 「箱根—伊豆下田周遊の旅」 19名参加

平成9年（1997） 会員数：96名

- 2月 ・新春賀詞交歓会実施 於 乃木温泉ホテル 33名参加
- 5月 ・第9回定期総会開催 於 イースタンホテル 54名参加
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 9月 ・第2回ハガキによる健康状態調査を実施 （回収率：100%）
良好＝30% 普通＝45% 通院＝25%
- 10月 ・秋の懇親旅行実施 「鳴子峡—仙台松島周遊の旅」 38名参加

平成10年（1998） 会員数：120名

- 1月 ・新春賀詞交歓会実施 於 乃木温泉ホテル 40名参加
- 5月 ・設立10周年記念総会開催 本部より太田会長ご臨席
支部会報「日光」創刊号発刊
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 8月 ・シャープ労組栃木支部結成30周年記念「夏の特別企画旅行」に参加
お座敷列車で「山形花笠踊り—仙台七夕祭り」 25名参加
- 10月 ・秋の懇親旅行実施「三保の松原—日本平—久能山東照宮周遊の旅」
- 11月 ・第3回ハガキによる健康状態調査を実施 （回収率：63%）
良好＝23% 普通＝59% 通院＝18%

平成11年（1999） 会員数：127名

- ・支部会報「日光」第2号を1月に、第3号を5月に発刊
- 1月 ・新春賀詞交歓会実施 於 乃木温泉ホテル 42名参加
- 5月 ・第11回定期総会開催 於 仲よし 50名参加
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 11月 ・秋の懇親旅行 参加者少数のため中止

平成12年（2000） 会員数：133名

- ・支部会報「日光」第5号を1月に、第6号を5月に発刊
- 2月 ・新春賀詞交歓会実施 於 エスポワール 40名参加
- 5月 ・第12回定期総会開催 於 エスポワール 46名参加
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 10月 ・秋の懇親旅行実施「水戸の史跡探訪—いわきグルメの旅」 29名参加

平成13年（2001） 会員数：152名

- ・支部会報「日光」第7号を1月に、第8号を5月に発刊
- 2月 ・新春賀詞交歓会実施 於 那須温泉アズマ 36名参加

- 5月 ・第13回定期総会開催 於 エスポワール 51名参加
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 8月 ・高齢者対策「介護保険制度学習会」開催、講師は矢板市より担当職員
- 10月 ・秋の懇親旅行実施「紅葉の十和田湖―奥入瀬―田沢湖周遊の旅」

平成14年(2002) 会員数：183名

- ・支部会報「日光」第9号を1月に、第10号を5月に発刊
- 2月 ・新春賀詞交歓会実施 於 エスポワール 48名参加
- 4月 ・岩村 博 氏が藍綬褒章を、土田 甲子 氏が勲五等双光旭日賞を受賞
- 5月 ・第14回定期総会開催 於 エスポワール 63名参加
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 10月 ・秋の懇親旅行実施(日帰り)「鶴岡八幡宮―鎌倉大仏殿周遊の旅」
- 12月 ・第4回ハガキによる健康状態調査を実施 (回収率：54%)
 良好＝34% 普通＝43% 通院＝23%

平成15年(2003) 会員数：191名

- ・支部会報「日光」第11号を1月に、第12号(設立15周年記念号)を5月に発刊
- 2月 ・新春賀詞交歓会実施、於 乃木温泉ホテル、60名参加
 ・地上デジタル放送に備え、ANT調査の緊急要請あり、社友会より12名参加
- 5月 ・第15回定期総会開催 於 エスポワール 72名参加 幸会長ご臨席
- 7月 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 10月 ・秋の懇親旅行実施「松島―金華山周遊の旅」 21名参加

平成16年(2004) 会員数：216名

- ・支部会報「日光」第13号を1月に、第14号を5月に発刊
- 2月 ・新春賀詞交歓会実施 於 鬼怒川温泉ホテル別館 49名参加
- 4月 ・亀山工場見学会実施(操業開始後初めての一般公開)
- 5月 ・第16回定期総会開催 於 エスポワール 63名参加
 ・第5回ハガキによる健康状態調査を実施 (回収数：141、回収率：54%)
 良好＝35名 普通＝60名 通院＝31名
- 7月 ・第1回SGC(環境美化活動)に参加 矢板駅周辺の清掃、8名参加
 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付(10回目)
- 9月 ・秋の懇親旅行実施「新潟県片貝の花火大会の旅」 30名参加

平成17年(2005) 会員数：228名

- ・支部会報「日光」第15号を1月に第16号を5月に発刊
- 1月 ・新春賀詞交歓会実施 於 エスポワール 57名参加
- 5月 ・第17回定期総会開催 於 エスポワール 69名参加 下野副会長ご臨席
- 7月 ・第2回SGC(環境美化活動)に参加 矢板駅周辺の清掃、13名参加
 ・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 10月 ・秋の懇親旅行実施「南房総半島周遊の旅」 23名参加
- 11月 ・第3回SGC(環境美化活動)に参加 矢板運動公園周辺の清掃、9名参加

平成18年(2006) 会員数: 237名

- ・支部会報「日光」第17号を1月に、第18号を5月に発刊
- 1月・新春賀詞交歓会実施 於 エスポワール 49名参加
- 5月・第18回定期総会開催 於 エスポワール 54名参加
- 7月・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 12月・栃木支部ホームページ開設(12月25日スタート)

平成19年(2007) 会員数: 254名

- ・支部会報「日光」第19号を1月に、第20号を6月に発刊
- 1月・社友会本部の年賀会の状況をテレビ衛星放送で視聴 72名参加
- ・新春賀詞交歓会実施 於 エスポワール 59名参加
- 2月・矢板市福祉のつどいで、シャープ社友会栃木支部表彰される
永年に亘る高原募金への寄付の功績により受賞
- 3月・第4回SGC(環境美化活動)に参加 矢板長峰公園周辺の清掃、4名参加
- 6月・第19回定期総会開催 於 エスポワール 63名参加
ホームページ専任副支部長設置
- 7月・シャープサマーフェスティバルにチャリティーバザーに出店、売上金を矢板市福祉協議会へ寄付
- 9月・第5回SGC活動に参加、「シャープの森 in やいた」下草刈り 5名参加
- 10月・秋の懇親旅行実施「会津街道紅葉と菊人形周遊の旅」 33名参加
- 11月・第6回SGC活動に参加、長峰公演周辺の清掃 2名参加
- ・第7回SGC活動に参加、「シャープの森 in やいた」植樹 3名参加

平成20年(2008) 会員数: 267名

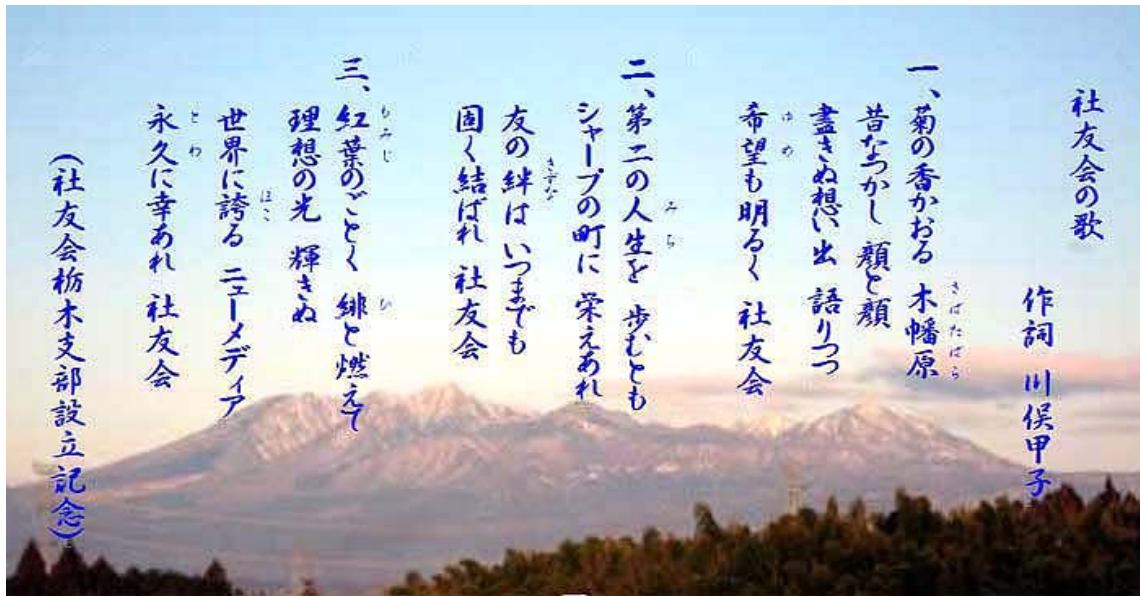
- ・支部会報「日光」第21号発刊
- 1月・社友会本部の年賀会の状況をテレビ衛星放送で視聴 62名参加
- ・新春賀詞交歓会実施 於 エスオ 31名参加
- 3月・第8回SGC活動に参加、長峰公演周辺の清掃 5名参加
- 5月・第20回定期総会開催 於 エスポワール 72名参加
社友会本部から蛇草会長ご臨席



シャープ社友会栃木支部設立総会

栃木支部社友会の歌

シャープ社友会 栃木支部設立を記念して、川俣甲子氏が作詞されました。
曲はまだできていません、作曲を募集しています。



栃木支部歴代役員

	H1～2年	H3年	H4～5年	H6～7年	H8～9年	H10年
顧問	稲見 作十	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※
支部長	木村 正	木村 正	浦川 正司	浦川 正司	浦川 正司	浦川 正司
副支部長	保科 雄喜	石塚 忠	石塚 忠	石塚 忠	石塚 忠	仲谷 輝郎
	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	山崎 一義
事務局長	西脇 仁平	浦川 正司	中村 義雄	中村 義雄	中村 義雄	中村 義雄
会計	西脇 仁平	浦川 正司	中村 義雄	中村 義雄	中村 義雄	中村 義雄
会計監査	広尾 義治	広尾 義治	広尾 義治	広尾 義治	広尾 義治	広尾 義治
	斉藤 幸夫	斉藤 幸夫	西脇 仁平	関 栄三	関 栄三	関 栄三
ゴルフクラブ	※※※	※※※	※※※	※※※	三好 齋	三好 齋
	H11～12年	H13～14年	H15～16年	H17～18年	H19～20年	
顧問	※※※	※※※	※※※	浦川 正司	浦川 正司	
支部長	浦川 正司	浦川 正司	浦川 正司	岩村 博	岩村 博	
副支部長	仲谷 輝郎	仲谷 輝郎	仲谷 輝郎	中村 義雄	安東 郁哉	
	山崎 一義	山崎 一義	山崎 一義	山崎 一義	山本東洋治	
	※※※	岩村 博	岩村 博	福本 英之	村上五十六	
事務局長	中村 義雄	中村 義雄	中村 義雄	安東 郁哉	増田 武司	
事務局次長	※※※	※※※	安東 郁哉	増田 武司	網野 正輝	
	※※※	※※※	※※※	日置 久義	日置 久義	
会計	中村 義雄	古市 正昭	古市 正昭	平山 勝	平山 勝	
会計監査	広尾 義治	広尾 義治	関 栄三	古市 正昭	古市 正昭	
	石塚 忠	石塚 忠	石塚 忠	後藤 謙輔	後藤 謙輔	
カメラクラブ	徳田浩・田中男	只友 将弘	只友 将弘	只友 将弘	只友 将弘	
歩こう会	中村 茂	中村 茂	中村 茂	中村 茂	中村 茂	
メビウスクラ	※※※	三友 宏章	三友 宏章	仲谷 輝郎	仲谷 輝郎	
ゴルフクラブ	岡沢 幸男	生嶋 良幸	岡部 隆一	網野 正輝	大橋 堅固	



勉強会風景

社友会でパソコンの同好会を作ろうとの機運が、持ち上がって久しく時間が経過していたが、漸く発会となったのは平成十三年二月。ITから疎外されないように現役時代を凌ぐ趣味を活かそうということから、三友宏章さんを中心にしてクラブの発足をみた。月一回の例会と勉強会を不定期で活動を開始。初めてパソコンのキーを触る会員、ある程度の基礎知識を持ち合わせている会員などそれぞれの持ち味を一同に介しての勉強会が始まった。

先ずワードを学ぶ事が勉強会の中心テーマ。経験のある会員が先生役。勉強の材料は支部会報「日光」の編集作成。文章の作成に四苦八苦。編集に至るにはど

うなるかと危ぶまれる勉強会。「日光」は既に発刊していたが、一部会員にいつまでもオンブにダツコから抜け出そう、と言うのも大きな動機。現役時代にはパソコンのバの字も知らなかったが、勉強を重ねるにつれて、文章作成・編集が可能となり「日光」作成に大いに寄与できるようになった。メールを開設して交信を愉しむ事や、連絡などメールの効用が発揮されている。デジタルカメラから画像の取り込みや編集の技法も勉強会で学ぶ事ができた。

平成十七年七月からクラブ自身でホームページ開設の為に、勉強会を開始した。翌年に、支部がホームページを開設する方針を示されて、大々的に勉強会を山本副支部長、粉川氏の協力を得て一年間の準備期間の後、平成十八年クリスマスに開設する事が出来た。社友会会員のHP開設者の参加が多いに望まれている。クラブの課題は、親しむ会員の増加。まだまだパソコンを学びたいという支部会員が潜在しているが、この機会を活かしてパソコンの愉しみを知って頂けるように会員のニーズに合わせながら運営をしてゆきたいと願っている。ソフトのOSもウィスタが発売されて今後ウィスタ愛用者が増えてくればこのソフトを活かした技法も学びたいもの。

是から新しく社友会に加入する方々は既にパソコンを習得している方が多い事ではあっても、ウィルス対応策など、これからの新しいパソコン技法を共有する為にも、一人でも多くの方々にクラブに参加して頂けるようにしてゆきたいものと思っている。（仲谷輝郎）

メビウスクラブ 主な出来事

- H13/ 2 会員数11名で発足
会長：三友宏章 副会長：永谷光弘・古市正昭・高橋 彰 会計：仲谷輝郎 事務局：中村義雄
会則を制定し定例会と勉強会を実施
- H14/ 6 ナスネット 会社見学を実施
- H17/ 5 役員交代 会長：仲谷 会計：古市
事務局：山路規生
- 同時に新規入会者の会費を下げる改定を実施
- H17/ 7 ホームページの勉強会を開始
- H17/12 第1回年末懇親会を実施
- H18/12 第2回年末懇親会を実施
- H18/12 支部ホームページ開設
- H19/ 6 会計：安東郁哉に変更
- H19/12 第3回年末懇親会を実施
- H20/ 6 現在会員数は15名



メビウスクラブ懇親会
コリーナ矢板にて



《クラブの歩み》 カメラクラブ

2000年05月 カメラクラブ発足 幹事：徳田氏、田中氏
 2001年12月 クラブ幹事(会長) 只友氏就任
 2008年05月 『写真展』村上勲とシャープOBの仲間展開催

■ 撮影会実施状況

2001.06月 那須野が原公園
 2002.06月 黒羽城址公園、9月 大子町
 2004.04月 喜連川、小川、湯津上、5月 塩原スッカン沢
 09月 茂木町、11月 福島県観音沼
 2005.04月 那須町、湯津上、6月 尚仁沢、県民の森
 09月 茂木町、10月 福島県松枝岐
 11月 茨城県滝川溪谷
 2006.02月 東古屋湖、4月 福島県三春、6月スッカン沢
 10月 福島県松枝岐、11月 日光、足尾
 2007.04月 福島県三春、白河、9月 茂木町
 11月 茨城県花園溪谷
 2008.02月 東古屋湖、4月 黒羽、那須町、湯津上
 06月 塩谷町尚仁沢(以降はホームページ参照)



研修会風景



写真展風景



松枝岐撮影会



三春撮影会



片岡一紀



田代宏明



只友将弘



田代夫人

■ フォトコンテスト(F.C)入賞暦概要(赤字文字作者の作品掲載)

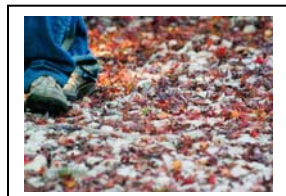
2005.09月 『黒羽紫陽花祭り』F.C 田代夫人、**片岡**、只友入賞
 10月 『塩谷地区芸術祭』田代準芸術大賞
 11月 『美しいとちぎの村』F.C 只友、志賀入選
 2006.01月 『しもつけ写真大賞展』**田代**準特選
 11月 『矢板の四季』F.C 田代、**田代夫人**、只友入賞
 2007.02月 雑誌『風景写真』F.C 志賀準優秀作品賞
 02月 『NOSAI とちぎ』F.C 只友、志賀入賞
 06月 『フジクロームクラブ』F.C 志賀、**只友**、田代入賞
 11月 『美しいとちぎの村』F.C 田代、志賀、只友入賞
 11月 『矢板の四季』F.C 志賀、田代、只友入賞
 12月 雑誌『風景写真』**志賀**優秀作品賞
 12月 サトカメ『秋の思い出』F.C **山本**入選
 2008.02月 『NOSAI とちぎ』F.C 只友銅賞、志賀入選
 02月 『日光フォトコン』志賀入選
 04月 雑誌『風景写真』F.C 田代準優秀作品賞
 04月 『フジカラークリスタルの輝き』F.C **山口**入選
 04月 『しもつけ写真大賞展』**村井**、山口、志賀、田代、田代夫人、只友入選



志賀 実



山本奨司



村井敏一



山口重一

平成20年度新入会員募集中!

お問い合わせ：幹事 只友将弘 携帯 090-3248-7309

ゴルフ同好会の歩み

発起人は、現在も現役プレイヤーの浦川正司さんと当初幹事の三好 齋さんです。
第1回ゴルフコンペは平成7年10月17日矢板カントリークラブで開催されました。
参加6名、第1回目栄えある優勝者は三好さんでした。

第1回	平成7年10月17日	幹事	三好 齋	優勝者	三好 齋	参加	6名
第15回	平成11年1月22日	幹事	岡沢幸男	優勝者	安東郁哉	参加	14名
第27回	平成13年3月22日	幹事	生嶋良幸	優勝者	住吉幸人	参加	18名
第37回	平成15年3月20日	幹事	岡部隆一	優勝者	柏原武司	参加	20名
第47回	平成17年3月22日	幹事	網野正輝	優勝者	八木 弥	参加	24名
第57回	平成19年3月22日	幹事	大橋堅固	優勝者	木村 修	参加	33名

ゴルフ愛好者会員相互の親睦と健康維持のため、年5回のコンペと4回の研修会を開催しています。平成20年3月現在コンペは通算62回、研修会は28回（4月含む）の実績となっています。

上記の通り毎年、コンペ参加者も増え続け現在ゴルフ同好会会員も70名を超える大世帯となりました。参加者の皆様に於かれましてはビギナーもベテランも和気藹々とプレーを楽しんでおり、まだ参加されていない方、これから始める方も大歓迎します。



第57回コンペ 於：矢板カントリークラブ スタート前の参加者写真

募集中



連絡先：大橋堅固 TEL:028-682-0753

新入会員大歓迎

会員一同



「歩こう会」の歩み

「歩こう会」は、私が社友会に入会して3年目の、平成11年9月に発足して今年で10年になります。当時、栃木支部社友会員数は約120名（内、半数は準社員からの会員）であり、同好会としてはゴルフしか無かったので、当時の浦川支部長からの要請により、社友会発展と魅力ある支部に何とかしなくてはとの思いからやむを得ず「歩こう会」の幹事を、引き受けることにし現在に至っております。

発足当初は5～6名（奥様同伴）で、矢板市近辺の山歩きから始めたのですが、栃木の地域柄バス利用が絶対条件になります。しかし乍ら社友会員単独では小型バスの定員確保が出来ず、苦肉の策として外部のトレッキング仲間（岳友会・シルバー大学、他）を誘うと言う、異例の手段を続けて来たのであります。

自然に恵まれた栃木県内全域、或いは、県外へと行動範囲を広め、季節に適した景勝地（山、溪谷、湿原、神社、仏閣等）を選び、四季折々の情景を眺めながら、楽しく歩く例会も、既に55回を超える事になり、何れの回も記念写真、或いは記憶に残る思い出深いものがあります。

平成17年度より会員制、組織運営に移行し、会員の固定化を図るべく改善して参りましたが、会員の増加にはつながっておらず、各回の例会に於いても社友会員の参加者比率は4割弱であり、残念ながら今もって外部の参加者に頼らざるを得ないのが実状であります。

会員の参加意欲を高めるべく、常に新しいコース設定に取り組み、会員との絆（安全・安心・信頼・感動）が無ければ持続出来ないとの考えで進めて来たのであります。幸いにも参加者からは毎日が珍しい所に行けて楽しみであるとの感謝の気持ちが伝わって来るからこそ継続出来ているものと痛感しております。

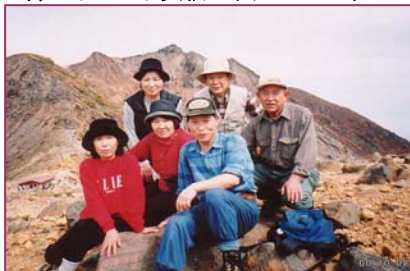
入会申込み、問い合わせ等は 幹事 中村 茂 まで

Tel 0287-44-0097 Eメール naka_shige1936@ybb.ne.jp

第2回 矢板八方ヶ原 H11年



第6回 那須朝日岳 H12年



第10回 尾瀬沼一周 H13年



第15回 高原山釈迦ヶ岳 H14年



第18回 那須茶臼岳 H15年



第24回 茂木鎌倉山 H16年



第32回 裏磐梯五色沼 H17年



第41回 栃木大平山 H18年



第52回 尾瀬ヶ原 H19年



社友会栃木支部 結成二十周年を迎えて

島田 次秀

栃木支部は、会社で社友会ができた八年後の一九八八年に発足しました。現在その会員数は二七〇余名ですが、ここに至って所謂団塊の世代といわれている多くの人達が一斉に定年を迎えるようになり、ここ数年でその数も約二倍の六百名を超える規模になるうとしています。

私は一九八〇年の五月に家族と共に栃木に参りましたので、早や今年二十八年目となります。その間、大阪での単身生活もありましたが、人生初めての大変貴重な経験を沢山させていただきました。

三年前支部の会員になり、地元地域社会やその他多くの人達との交流を重ねる中で、会社を退きOBとなつた一個人が、今でも多くの方々から厚い信頼を受け地域社会において高い評価を得られているのも、これ偏にシャープという偉大なそして限りなく発展し飛翔している立派な会社で永年勤務できたことに他ならないと心から感謝をしています。

これからもOBとしての誇りを胸に、恵まれた緑豊かな素晴らしい自然環境のこの地で、第二の人生を精一杯歩んでゆきたいと思っています。

会社は、四年後の二〇一二年記念すべき創業一〇〇周年をむかえますが、今日に至るまでには、平坦な道ばかりではなく幾多の紆余曲折もあったでしょうし、他人にいいないご苦労もあったことと思います。

そして今ここにこうした雄姿があるのも艱難辛苦を見事乗り越えて来られた先輩諸兄、並びに現在活躍さ

れている後輩の皆さん方の日々の血と汗と涙の結晶による賜物と、その並々ならぬご尽力に対し畏敬の念を抱かずにはおられません。こうした状況の中で、私達に課せられている役割は、社友会という暖かい加護に甘んじているのではなく、この二十年を一つの節目として会員一人ひとりがこれを機会に創業の精神で五つの蓄積・誠意と創意を心の引き出しにして、会社に対して社会に対して、どう貢献してゆけるかを今一度見つめ直し、新たな考働を起していくことを強く求められているのではないかと思います。

表参道のオフィスより

鳥居 勉

社友会栃木支部・発足二十周年！おめでとうございませう。社友会の一員として皆様と共に遊びを分かち合いたいと思います。私も、シャープを卒業して早や十一年、年齢も満七十一才と完璧な老人となりました。

しかし、老体に鞭を打ちながら東京単身生活を続け、現役としてしぶとく頑張っています。現在の企業が私を必要とし、その価値を認めてくれる間は、それに報いるべく精一杯努力したいと考えています。それが「シャープのOBは凄い！」と評価されることに繋がり、シャープ時代に諸先輩や仲間から受けたご指導や温か

いご支援、また、永年に亘りお世話になったシャープへの恩返しになるのではないかと・・・と自分自身に言い聞かせています。そもそも、今働いている「企業グループ」に是非・・・とお声掛けいただいたのは、シャープで定年を迎える三年半位前でした。

しかし、シャープが好きで入社して以来、「永年シャープマン」として自分なりに頑張ってきた自負もあり、会社から与えられた「職種」にも恵まれ、あと少しでゴールインという所で「好条件」に魅せられての転職は到底考えられませんでした。そこで、先方の企業に出向き、私の「シャープに対する愛着」とお世話になった人々に対する「感謝の気持」を、誠意をもって説明し丁寧に辞退させていただきました。

これにて「一件落着」・・・その後三年余が経過、あと二ヶ月で定年退職となった時、突然以前お断りした企業のオーナーより電話があり「もうシャープに義理は果たしたでしょ。これからは私達のグループで頑張ってください・・・」これには参りました。

私自身とつくと忘れていた事を三年余黙って待つて居てくれたわけですから・・・お陰さまで、こちらの企業でも手厚い処遇を受け、それなりの実績を残すことが出来、「幸か不幸か」、いまだに毎日元気で仕事に励んでいます。

更に先日、企業のTOPからお呼びが掛り、今後四年間任期のある親会社の役員に就任する様、有難い要請をいただきました。（六月に開催される株主総会で承認される予定です。）シャープの経営信条にもある「誠意と「創意」を大切に、満七十五才まで健康に気を配りつつ頑張ろう！！と思う今日この頃です。

ご来京の折には是非、お声を掛けてください。原宿には綺麗な「おネーチャン」がいっぱい溢れて居り、眺めているだけでも楽しく若返った気分になれますヨ。

間もなく北京オリンピック

河越 泰博

* 今年の八月にはアジア地域で三度目の「第二十九回オリンピック競技大会」が、中国の北京で開催されます。一九六四年十月に日本東京、二十四年後の一九九八年九月に韓国ソウル、そして更に二十年後の二〇〇八年八月に中国北京です。

* オリンピックの開催地は、原則として大会開催七年前のIOC総会で、IOC委員が投票を行って決定されることです。中国は十三億の人口を擁し、豊富な労働力を背景に最近では世界の電気・電子機器の生産拠点として経済の急速な発展を遂げ、日本、韓国も迫って来たように、中国も二〇〇一年十一月にはWTOに加盟、二〇〇五年七月には、それまでのドル・ペッグ制から通貨バスケットによる管理フロート制を導入し、事実上の人民元レート切り上げに踏み出しました。

そして一人当たりのGNP上昇も相まって、巨大な消費市場としても脚光を浴びる段階にも入り、先進国への仲間入りに向けての、国の威信をかけての待ちに待ったオリンピック開催と言えるのではないでしょうか。

* 北京オリンピックの開会式は中国時間の二〇〇八年八月八日午後八時八分に行われる予定で、二十四

日までの十七日間に亘って、熱戦が繰り広げられます。

開会式の開始時刻を、「八」にこだわっていますね!!

中国の人達は、日本人以上に縁起を担ぐ、迷信好きな人が多いと言っても過言では無いようで、中国語の発音では数字の「八」と、目出度い意味を持つ言葉の「発展」、発音が似ており縁起の良い数として珍重されています。

例えば大金をはたいて「八八・八八八八」というような電話番号や自動車のナンバープレートを買う人も居るそうです。

* 私は定年間際の九年間、中国の南京市に在る「シャープの電子機器関連の生産会社」へ出向し、現地での生活や液晶テレビ等の生産に必要な部材調達関連の仕事をする中で、中国の色々な土地を訪れ、色々な方々にお会いする中で、中国文化の一端に触れる機会を得ました。

其の時には、シャープの社内外からを問わず、多くの方々から「中国と日本は、根底に儒教の思想が流れ同じ漢字文化圏でもあり、結果として考え方も似ているので仕事はやり易いんでしょうね?」と、

良く聞かれたものです。

ところで、これから中国への進出を考えている会社の関係者にとつては、「シャープは、なぜ南京市に進出したのか?過去の戦時中の不幸なできごとは、従業員との関係構築に影響は出ていないのか?」等、南京に進出したシャープが、どのような苦労をしているのか、大いに興味があったようです。

* 人によって受け止め方は異なると思いますが、私は「中国と日本は、異なる文化圏である」との感じを強く持ちました。どちらの文化が良いとか悪いとか、上だとか下だとか言うことではありません。文化が違うという事を認識し、不要な誤解を生じさせないように、言動等に配慮することが肝要だと痛感したものです。

中国大陸は日本の二十六倍の国土を有し、そこに「五十六もの民族が一緒に暮らしている」と言われています。私たち日本人とは異なり、彼らにとつて異文化・異民族との接触・交流は、昔から身近なものであったと言えるでしょう。

私は、中国の多くの方々と接触し、彼らの持つている大陸文化に触れてそれらのギャップに悩んだり新たな気付きを発見したり、なかなか忙しい(心に余裕が無い)九年間でした。

* 最後に、中国の人達の道徳観の一端を表現したものに「組織には忠であれ、友人には義であれ、親には孝であれ」という言葉があります。今日の日本では、懐かしい響きを持った言葉になってしまったのでしょうか!!

新入り会員の独り言

貝増 弘行

「社友会」栃木支部結成二十周年おめでとうござ
います。かくいう私は昨年の八月に入会させていた
だきましたばかりのヒヨッコです。今後ともよろし
くお願いいたします。

さて、退職後のあわただしさも一段落して「やれ
やれ」とあたりを見渡すといつの間にか桜は終わり
新緑がまぶしい季節になっていました。「さーてこ
れから何をしようかな」とテレビを見ながら考えて
いると、同じ団地の友達から「今年こそは鮎釣りに
行くんだからな」とうれしい誘いの電話が。

思い出せば、小学校五年生の時に今は亡き叔父か
ら鮎の友釣りの手ほどきを受けたのがきっかけで、
それから高校までは毎週叔父と実家近くの名張川
(三重県)で鮎釣りをするのが楽しみでした。

シャープに入社してからは仕事が忙しくて長ら
く鮎釣りから遠ざかっていましたが、その間に叔父
も他界し前出の友達に誘われて再開したのが二五
年後の一九九一年のシーズンからでした。那珂川、
箒川の清流に早朝から夕刻まで鮎竿をさきだして
子供のころを思い出したものでした。その鮎釣りも
たった一年で終わってしまうことになろうとは。

というのは一九九一年の一〇月からタイ工場建
設準備の仕事に変わり、一九九二年七月からはタイ
に赴任してしまったからでした。以後タイに連続

十二年、インドネシアに二年も赴任することになろ
うとは。いずれの国も赤道近くの暑い国であること
から鮎がスイスイと泳いでいるわけもなく、赤く濁
った川を見ながら日本の清らかな川を思い出して
いたものでした。

さーて釣り竿はどこに片付けたかな？昔のよう
な長靴なんか誰もはいていないんじゃないかな？
今日は本屋に行って釣り関係の本を買ってくるか
な？暇にまかせて思いは既に六月の解禁日に飛ん
でいる今日この頃です。



私の退職後の近況報告

相馬 セツ子

寒い冬も過ぎ桜の花が今盛りと咲き誇る今日こ
の頃です。皆様には益々御活躍の事と思います。

私も長い間お世話になった会社を無事定年退職
する事が出来た事、ひとえに皆様のご指導、ご支援

の賜物と心からお礼を申し上げ感謝しております。
退職後は社友会の皆様の仲間に入れていただけ
た事大変嬉しく思っています。これからの楽しみの
一つとなりました。

今、私の退職後の近況報告として、会社に勤めて
いた時は毎日会社、家庭、子育てと時間に追われゆ
つくりと自分の時間を持てなかった日々でした。

今、会社勤めが終わり自分の時間を充分取ることが
出来るようになりました。退職後しばらく心身を休
め、これから第二の人生へ一歩歩み始めました。ボ
ランティア活動に参加したり、生涯活動の一環とし
て健康、体力の維持のため、社交ダンスに、時には
心のリフレッシュの為旅に出たりして、第二の人生
を充実させ健康に気をつけながら毎日忙しく過ご
して居ります。心気一転精一杯頑張っています。

今、私は社友会から届く、会社の「窓」社友会の
会報「日光」その他の色々な連絡書、報告書等の活
動状況等を楽しく見させて頂いています。

この度社友会栃木支部が二十周年、会報「日光」第
二十二号の発行を迎えることが出来た事、心よりお
喜び致します。

今日の日を迎えるに当たり社友会の先に立って
活動して頂いている役員の皆様、会員の皆様のご協
力を心から感謝しています。

私は会社と社友会が共に活躍し発展して行く事
をよそながら祈って居ります。これからも一層のご
指導とお力添えを宜しく御願い申し上げます。

「為書」の思い出

阿見 六郎

栃木勤務時代、仕事で色々大変お世話頂いた先輩の方々に社友会栃木支部が結成され、発足時の苦労話を聞いたことがあります。

私は結成間も無い頃転勤で栃木を離れ、仙台物流に勤務しました。元

の上司でした浦川さんが定年退職後社友会に入られ、支部長になられたことを聞き、就任祝いに何が良いかと考えていました。

その折に偶々私用で東京に向く事になり、フト浮かびましたのが「為書」です。

当時の大蔵大臣・渡辺先生にお会いする予定でしたので、大蔵省でお話を拝聴した後、先生よ

り何か無いかと聞かれましたので、先輩に一筆「為書」を御願した所、快くお引き受け戴き特別に「為書」をしたためて下さいました。栃木支部ではまだ一度もお披露目されていません。(特定政治家の応援と誤解を受けない為) 後でその理由を聞かされました。

今は故人の為に一度拝見したいと思います

その折横浜税関栃木支所にも戴いた時の写真です。

渡辺先生と懇談できた事を私の宝としています。

今後益々の支部発展を祈念いたしています

釣りの思い出

網野 正輝

平成十九年の秋二回目の釣行。恒例メンバー、師匠の柏原さんご夫妻、弟子の阿部さん、八木さん、小生の五人で牡鹿半島の鮎川方面へ深夜の出発です。十月下旬の季節柄、朝夕は寒く早くも冬支度での装いです。早朝、女川港の釣具店にて釣りエサを仕入れ、現地到着すぐに仕掛けの準備です。

この釣具、仕掛けについて一言。

竿は手元がゴルフクラブ(ドライバー)のシャフトを利用、穂先は先端を極力柔らかく小さなアタリでも分かるようにした特製で、何れも柏原工房の手作り品です。又仕掛けも波止めでの釣りに適した物を考案、これも師匠の経験から考え出来たものです。

早速釣り開始です。天候、潮目共によく大漁が期待できました。しかし一向にアタリがありません。エサを一匹かけや房掛けに、仕掛けのハリやオモリを変えて工夫するもアタリが無く、挙句の果てに根掛かりし

て仕掛けが無くなる事多々あり。それでも根気良く魚群を探りながらアタリを待つこと数時間、小物は時折釣れるが目標の三十センチオーバーは出ず。他のメンバーも今だ釣れずイライラが募るばかりです。二週間前に(柏原夫婦で)ここで大漁に釣るからいなくなったのだと師匠に当たる始末です。

各自アタリを期待し竿先に集中、小生は根掛かりした仕掛けを修理中、目の前の置き竿が海に引き込まれそうになる強いアタリ。慌ててあわせを入れるとずっしりと。もしかしてビニール袋が掛かったと思うほど重くリールを巻けど浮いてきません。しかし竿先アタリらしきもの有り徐々に手元へ寄せて来ると突然潜られ竿は弓なり、リールのドラグは出るは大慌て。緊張の中やつと魚影を確認すると大きなカレイです。これは何とか釣り上げないと思い、師匠にタモタモ魚を掬う網と督促。みんなの協力を得て無事釣り上げる事が出来ました。感謝、感謝です

計測の結果、三十七センチ、七百グラム、厚み四センチ、カレイの大物ゲットです。

この記録現在いまだ破られず。

この日は釣果も少なく、翌日は民宿に近い漁港で釣ることにして宿に引き上げました。宿では、早々に風呂で一日の疲れを取ると、食事までの間に寝不足のためお眠りです。夕食は、新鮮なお魚メニューとお酒を堪能して眠りにつきました。

翌朝宿に近い漁港では、メンバー各々は早々とアイナメを釣り上げ、出だしは快調で家へのおみやげも何とか調達出来夫々に楽しい釣行でした。

後日カレイを煮付けおいしく頂きました。次はアイナメの四十センチオーバーが目標です。

カモメの話

柏原武司

一月二十四日夜半から牡鹿半島の鮎川方面へ向かって車を走らせ、釣りに出かけました。恒例の五人の予定が、網野君が所用で欠席となり四人（阿部、八木両君と愚妻）雑談で盛り上がりながら***。（往復六百六十キロメートル）新年一月初釣りは、栃木へ来てから初めて、それも北国へ。前週からの寒気と降雪で、高速道路は融雪剤が撒かれ所どころ凍結し危険が多く、注意と緊張の連続で年末までの快適運転とは一転、疲れが重く感じられました。

二十五日早朝、女川港で馴染みの釣具屋にて釣り餌を仕入れ、四十分ほど走って表浜港で釣り始めましたが、寒気と強風で小魚少々しか釣れず、その日は早々に宿へ引き上げました。

当然、熱い風呂と民宿の多彩なメニューとお酒を堪能したことは、何時ものことです。翌日は釣り場を鮎川港へ移し、今まで皆と行かなかった釣り場所へ入りました。

愚妻は一匹も釣れず不機嫌、他の二人も小魚少々、小生が三十一センチのアイナメ一尾を釣り上げました。釣果が悪いので、今後のために、他の釣り場も見えておこうと港奥の魚市場横へと移動して再度釣り始めました。『最近一週間の冷え込みが激しく、魚が沖へ出



5月5日に再挑戦の釣果

アイナメ 40 cm

てしまったよ』と漁師の話。此処でも小魚少々大きなゴミ***。大分時間が経って帰る時間が近付いてきた。

カニ一匹（民宿で出た様な）ナマコ一尾と愚妻は釣れないので、魚市場の中に興味が湧いてきて見学に行きたようです。その時今回の事が起きました。

他から見ると***鵜を釣った***そのものです。その一部始終を書きます。

小生が二十メートル程、投げ込もうと竿を振って手元操作中、当然仕掛けは水面に落ちたものと思っていました。突然リールに巻いてあるライン（2号）が凄いい勢いで出ていきます。一瞬青物が掛かって引いていると思ったが、直ぐラインが空っぽになりました。大きな魚だと其のまま引き続けラインブレイクします。不思議なことに其処で引きがとまったのです。訳がわかりません、竿は相変わらず重いです。ラインは百メートル以上あります。

此処で注意して周囲を観察しましたら、遠くで一羽の鵜が不自然な格好で水面に浮いています。それ以外何も気になることは無く、重い竿を少し煽ると動きは見えませんが、少し寄ってくるようです。

ラインが細いので急激には引けません。慎重にそろそろ竿を大きく曲げながら二十メートル程巻くと、遠くで鵜が動いてきます、五、六分掛け手元まで寄せてきました。羽や足にラインが絡まり身動きできない状

況です。今思い返すと、小生の後ろを飛んでいた鵜が、投げた仕掛けに反応して近付き羽に引っかかったようです。寄せている途中まで両君は気づきませんでした。が途中で判って大笑い。

此処からが三人がかりの動物愛護活動開始（糸に絡まった鵜と、新聞に載らない為に）普通はラインが切れるか（之はクリアー）意図的に切るか、どちらにしても鵜は死にます。

玉網でやっと掬いあげてライン外しに掛かりました。鵜も必死、嘴で強烈に突きます。おとなしくさせるために、八木君が鵜の両目を手で押さえ、阿部君と二人でライン外しに掛かり、最後に糸一本を切って終了。この間五分、両君に謝謝、無傷です。手を離すと元気に飛んで行きました。

その時になつて愚妻が魚市場から帰ってきて、大きな真鱈（六十センチ程）二尾と蛸二杯を買ったよと容器をとりよってきた。残念ながら釣れなかったが、大きなクーラーは一杯でした。勿論帰宅後のタラ鍋、真子の煮付けは最高でした。暖かくなるまで一休みです。



『遠い星』の記憶

富岡 堯子

昭和四十三年八月十二日、私は『早川電機株』の正社員として採用された。宇都宮から東北本線を下って六つ目の駅が矢板。私は五つ目で『断る!』と決めていた。だって行けども行けども山ばかり

——シテイガールには合わない。——ところが

駅には人事課長がご自分の車でお出迎え。大阪本社から連れてきた英文タイピストが出産間近なのに、後任が見つからなくて弱っている、と。

私も「もう少し英語を勉強してからでない」とお断り申し上げる。「それは中へ入って勉強してくれば良い」私の方は良くないから「重症の気管支炎を患ったばかり。万一健康を損ねて放り出されるのではたまりません。」しかし人事課長は「会社のためには一生懸命働いてくれた社員を放り出すような会社だと思ふかね、君イ」——私は眉にツバを三度ばかり付けたのだが、「助けると思つて」という止めの一言であえなく陥落。早速直属上司となる海宮課長に引き合わされた。(何だか矢板の山の狸に化かされたような按配であつた。)

と、かようないきさつで、翌日から朝六時前に起き、二時間かかって田圃の中の工場に着き、社是の「五つの蓄積」を唱和する身となつた。

「信用の蓄積」「資本の蓄積」「人材の蓄積」「取引先の蓄積」「奉仕の蓄積」——これを知人に御披露したら、「奉仕の蓄積」というのがすばらしいですね、と感心していた。四十年前、既に定年は男女

平等の六十歳。週五日制で土日は休み。こんな会社は栃木県の何処にもなかった。

社長はシャープペンシルの早川徳次様。関東大震災で、妻子と事業の全てを失われ、大阪で再起されたその数奇な運命は、当時『遠い星』というお芝居になり、人気俳優木村功が主人公を演じていた。生きながらに伝説の人物であつた。

戦傷で視力を失った人を工場長とした特殊工場がある、とのこと。「報恩」と「福祉」が会社の気風になつていた。

カラーテレビ工場が一番偉い方は稲見作十様(何という絶妙なネーミング)。私は毎日、"Dear Mr. Inami"で始まる海外のレターを日本文に訳していた。昭和四十四年アメリカ視察に行かれた際、ハワイのお花の香水をお土産に頂戴した。母親にお写真を見せ、「田舎の小父さんみたい」だけどと言いかけたら「そんなことはありませんよ、立派な方だ」私は驚いた。(この母親が誰かをほめる言葉など聞いたことがない。)

当時、栃木工場の海外営業課の最重要任務は外人客のアテンドであつたろう。——為替レートが1ドル三〇八円の時代、エアーメールの往復に二週間かかり、国際電話は三分間で数千円、海外出張は水盃。

毎日毎日面白かつたが、アメリカの優良代理店一五〇名の工場見学ツアーは一大イベントで、よくも

無事に済んだものと思う。

その前日、課長が英文で作成したアンケートのタイプを打ち、謄写版で印刷する。インクで汚れた事務服の替えはないから、夜中に洗濯してアイロンを掛け、二時間しか寝ないで、翌朝は一列車早く出社した。

総務は総務で、腰掛便座を木製で二台つくり、総務課長直々検分に来られた。当日、トイレの前は列をなし、「社員用のトイレでよろしければ」と伝えると、皆様はほっとされた様子。事業部長の御挨拶を通訳する役の海宮課長は超緊張の面持ち。「飴玉でもないか」「あります」ポケットから取り出して点数を稼ぐ。

とにかく、課員一同の英語力を引き上げねばならぬと判明。ジャパントイムスの記事でも読むのかと思つたら、課長は私に、中学一年のリーダーを人数分揃えるよう命じられた。目からウロコが落ちた。「基本こそ最重要」なのであつた。

ご近所が寝静まつている中を駅へ急ぐ冬の朝。踏み切りでバスを飛び降り、線路の砂利を踏んで最後尾の扉から列車によじ登る夏の夕べ。——懐かしきサーバイバルの日々よ。

——この拙い文を

故西村隆至(峰雄)様に捧げます——

男体山登山での経験

坂本 幸夫

昨年の秋、新聞に「秋の男体山に登ろう」との記事がでていたので、一度登ってみたいと思っていたので参加してみました。十月七日中禅寺湖の中宮祠でお祓いと和太鼓演奏があり、朝七時から登山となりました。山頂でも和太鼓演奏をしてくれるとの事です。

中宮祠から登りだすと次第に道は険しく成って行きます。三合目から四合目に掛けては工事用の車道を歩きますが、それ以降は頂上まで相当な急坂を登ることになります。中宮祠が標高一二三〇mで山頂が二四八四mなので、約一二五〇mの標高差を一気に登ることに後で気づきました。天気は初め曇っていましたが次第に晴れて来て、紅葉にはまだ少し早かった感じですが、途中から中禅寺湖が雄大に見えて来たり、八合目からは戦場ヶ原側も見える様になりました。頂上までずっと急な登りでしたので、大汗をかきながらも何とか



中宮祠



7合目付近



9合目付近

三時間四〇分ほどで到達することが出来ました。

山頂からは、まさに三六〇度の展望が望まれ、眼下の戦場ヶ原・中禅寺湖、山は白根山・太郎山・大真名子・女峰山・尾瀬の燐岳・かすかに富士山など幾多の山塊を見るこ

とが出来ました。登りの苦勞を吹き飛ばしてくれる景色です。またその山頂に轟いた「和太鼓」の音に元氣付けられました。

ここまでは上出来の首尾でしたが、この後が不覚を取ってしまうことになります。

山頂で昼食を摂って、景色を堪能して下山を始めました。降りには順調に行けば三時間も掛からずに下山できるはずでしたが、八合目を降りたあたりから「膝」の調子がだんだん悪く成ってききました。下山時には体重が膝に掛かって膝を痛めやすいとの知識は持っていましたが、いざ痛くなってくるとどのようなように歩いたらこれ以上痛くならないか判らず、休み休み降りていきました。どんどん下山していく人に追い抜かれながら、何とか四合目まで降りてきて工事用車道に出ました。この道は全く違った場所に通じているのでそれをず

つと降るわけには行きません。車道の間は傾斜が緩いので膝を曲げずに歩けるため三合目までは来れました。

そこからはもう少しの頑張りで行けるはずですが、膝が痛くて中々に進めず蟹の横ばいの様にしたり、一歩一歩ゆっくり歩かざるを得ず、次第に日も陰ってくるので気もあせりますが、中々終点が見えてきません。

それでもようやく中宮祠につながる石段にまで来て、なお一歩一歩降りて行ったところ、中宮祠境内で妻が心配そうに待っていました。

妻の方は戦場ヶ原の小田代の方に散策しに行っていてここで待っていたのです。予定の時刻を一時半も遅れていました。心配を掛けたことと日ごろの運動不足から来る体力のなさを反省した一日でした。

帰りには日帰り温泉に寄って膝を良く暖めて帰りました。それでも一週間ほど階段は苦痛でした。皆様も日ごろ山歩きされていない方は下山時に十分注意して下さい。



山頂和太鼓



眼下戦場ヶ原

アメリカ力駐在あれこれ（その二）

空を飛ぶ恐怖感

飯野一男

* 軽飛行機の初訓練飛行

下宿先の近くに自家用機用の飛行場があり（ジェット機も発着可能）、ここで軽飛行機の操縦ライセンスを取るべく飛行時間30分の初期訓練飛行を試みたが、何分指導教官が朝鮮戦争時のジェット戦闘機パイロットでもあったので荒っぽいことこの上なく、わずか5分程度の飛行操縦の説明があつたのみで滑走路から飛行させられ、気がついたら何の障害物の無いハドソン河上空を飛行しており、着陸する段になって、何処に飛行場の滑走路があるのか見極められず、うろろろ探しているうちに滑走路上空に来てしまったらしく、教官に操縦桿を取り上げられた途端に急旋回し真つ逆さまに急降下し地面が目の前に迫るジェットコースター並みの恐怖を味わった。

無事着地したものの飛行機を降りる段になつたら歩けないほどの恐怖に襲われ、軽飛行機パイロットのライセンスの取得は断念し中止とした。（参考までにルームメートのケイは水上飛行機のパイロットライセンスを取得した）

* スカイダイビングの恐怖

次に試みたのが、やはりルームメートのケイが軍隊で教わつたスカイダイビングの何かを知るべく、飛行機から飛び降りる準備としての第1段階の講習を受けようと、背中にはメインのパラシュート、腹部には緊急用のサブパラシュートを着けて、ダイバーと共にダイビングする高度まで飛行機で行つて帰ってくる講習

であつた。

しかし、この飛行機たるや機体が布製で出来ている



機外へジャンプした瞬間

第2次世界大戦の欧州北部戦線で使われたモスキート爆撃戦闘機（蚊のごとく小回りの利く軽戦闘機）の機体から扉を取り外した飛行機で、そのまま外へ飛び出すことが出来るという、とてつもない危険きわまり無い軽飛行機に7、8人のダイバーと共に乗せられ、1000m（本来は3000m）の上空にまで上がつてきてダイブする段階になるとダイバーの大半は身体に異常を来たし始めた。

地上では張り切っていたダイバーも顔をこわばり、真つ青になり、鳥肌が立ち身体はガタガタ震え、歩行が出来ない程の恐怖に襲われた状況に陥り、落下指導教官が強引に飛行出口まで引つ張り出し、尻を蹴り、強引に外へ突き落しダイブさせていた光景を見て、これでは命がいくつあつても足りないし、小生には到底できる代物ではないと危険なスカイダイビングの練習を中止することとした。

朝鮮戦争時代に、日系米国人で落下傘部隊に配属され訓練を受けた人の話では、降下訓練の2回目以降4、5回までは（第一回目の降下は、怖さ知らず）、降下訓練の前日は怖くて眠れないし、当日はガタガタ震えて靴紐が結べないほどの恐怖が襲うのが普通であるといっていたのを聞いたので、ジャンプ前に恐怖が襲ってくるのが理解できたが、人間は地上から足を離れて死に迫る状態では、とこの様な恐怖に襲われることを知り、結局スカイダイビング第一段階で中止した。

* 40年ほど（1965、70年）前の怖いもの知らずの20歳後半の若者が、何でもやってみようという意気込みをしたものの、結局は何も出来ずに帰国し年齢を重ねただけの人生で今日までに至っているが、フィリッピン、インド駐在時代にはこの様なことはせずにまじめに駐在を続けた。別の面で両国での駐在生活で受けたカルチャー・ショックに付いても、機会があればご紹介をしたいと考えている。

新入会員紹介

会員番号 三九九八

金子 真司

一九四七年十二月一日生

二〇〇七年十二月定年退職となりまして、この度シ



ヤープ社友会に入会させて頂くことに成りました。よろしくお願い致します。現在少々有る菜園を勤しむ毎日です。当方(群馬)へお出掛けの際はお声掛け下さい、ご案内致します。

会員番号 四〇〇七

中島 寛

一九四六年十二月十七日



今現在「毎日が日曜日」を实践中です。趣味とまではいきませんが、好きな草花を育てながら、これからの人生も地域社会と共に、実りあるものにしていききたいと思ひます。会員の皆様どうぞよろしくお願い致します。

会員番号 四〇五四

林 一三二

一九四八年一月十日生



本年一月十日付けで、亀山工場調達本部AV資材部

にて、定年退職を迎え、社友会に入会致しました。今後は、シャープの発展を見守り、皆様方と交流を取りながら第二の人生を送り度く。宜しく願ひします。

会員番号 四〇九〇

野中 春夫

一九四八年二月十二日生



二月十二日を以つて社友会栃木支部に仲間入りさ

せて頂きました。よろしく願ひ致します。支部HPで活動の様子が良く分かりました。私は在職中の経験を生かして今しばらく海外で活動する事にしていますので、帰国後には好きなゴルフ同好会に入会させて頂こうと思ひています。

会員番号 四一〇一

岩谷 秀勝

一九四八年二月六日生



この度、無事シャープ株式会社を定年退職し社友会

に入会させて頂きました。これも各先輩たちの公私にわたるあたたかいご指導ご厚情を賜りました事と深く感謝致しております。今後は健康に留意し、感性を持ち、人との付き合いを大切に、在職中できなかった事をやりながら、新たな気持ちで第二の人生を過ごしていきたいと考えておりますので、何卒今後とも変わらぬ一層のご指導賜りますようお願い申しあげます。

会員番号 四一〇二

辻 勉

一九四八年二月二十七日生



亀山工場に単身赴任して栃木に戻ってまいりましたが、

亀山での忙しさと帰ってからの生活のギャップに戸惑っています。社友会の行事にも積極的に参加して第二の人生を楽しみたいと思っています。先輩方のご指導をお願いします。

会員番号 四一〇三

白川 寿

一九四八年一月一日生



二〇〇八年一月に退職致しました。現在マイペースで

日々を過ごしています。海外工場、亀山工場勤務の為親友が少なく、これからの人生を社友会の諸先輩方の良きアドバイス頂き有意義に過ごせればと考えており僣越ながら宜しく願ひ致します。

会員番号 四二二一

星野 幹夫

一九四八年三月四日生



二〇〇八年三月四日付にて退職し社友会に入会させて頂きました。今後は皆様諸先輩の良きアドバイスを頂きながら第二の人生を楽しんで行きたいと考えております。今後ともよろしく御願ひ致します。



会員番号 四二二二

石川 道雄

一九四四年一月二日生

定年四年経過し入会しま

した。最近温泉めぐりを

日々楽しみにしております。体力を維持する為、趣味のゴルフ、週一回、自転車で、一日十km走り老化防止に努める毎日を通じております。

会員番号 四一三七

藤本 渉平

一九四八年三月二十五日



この度、四十年近いサラリーマン生活を無事に終

え、社友会に加えて頂くことになりました。十年は天理で映像機器開発、二十年は栃木でビデオの生産関連の仕事、残りは三重で液晶TVの仕事をさせて頂き、多くの経験することができました。シャープという会社で就職する縁があり若き頃に描いた抱負、生き方からそれ程ズレのない仕事に携わることができたのは各職場での多くの方々の協力のおかげだと感謝いたしております。今後は当会の多くの諸先輩との交流を通じてシャープの今後の発展を見守りたいと思います。

会員番号 四一四九

鈴木 幸雄

一九四八年四月五日生

長年の勤めから解放され緩やかな時をすごしてい

米寿・喜寿・古希

おめでとうございます

	氏名	氏名	氏名
米寿	377 高野 イク	H20年 2月	
喜寿	399 浦川 正司	H20年 1月	
	400 久利生英雄	H20年 1月	
	428 大谷 仲治	H20年 5月	
古希	1167 白井 護	H19年 11月	
	1176 広安 元嗣	H19年 12月	
	1207 村井 敏一	H20年 2月	
	1208 高松 勝雄	H20年 2月	
	1230 藤井 恭平	H20年 3月	
	722 安東 郁哉	H20年 5月	

(H19年11月～H20年5月)

会員番号

四一〇〇

合田

研

一九四七年一月二十四日生

会員番号

四〇二二

河野

孝司

一九四七年十二月九日生

趣味を楽しみたいと考えています。よろしくお願いします。

会員番号 四一〇四

山口 重一

一九四八年二月一日生

ます。これからは健康を第一にし、趣味を楽しみたいと思っております。先ずは写真です。野山を歩き、四季折々の自然や花を撮ること。夏には鮎釣りも楽しみます。

栃木支部総会開催

五月二十五日(日)午前十時から、大田原市のふれあいの丘シャトーエスポワールで会員七十二名の出席来賓として社友会本部の蛇草会長、会社代表として山下総務部長、労組代表で印南委員長をお迎えし、第二十回総会を開催、議事は原案通り承認され、また岩村支部長の再選も満場一致で決定された。総会後、懇親昼食会を行い、旧交を温めあい和やかな雰囲気の中に無事終了。



表紙写真説明

奥日光竜頭の滝に咲く「トウゴクミツバツツジ」です。中禅寺湖畔、湯の湖畔に多く見られ、例年五月中旬、湖畔の桜が散る頃、入れ替わりに咲き乱れます。

編集後記

★ 支部結成二十周年記念号に多くの原稿を賜り感謝です。

★ 支部の歴史がつつがなく重ねられて、書き記される事を喜び合いたいと思います。(仲谷)

栃木支部ホームページ

開設の思い出

副支部長 山本東洋治



社友会 栃木支部 ホームページ

<http://tcg-syayu.web.infoseek.co.jp/index.html>

栃木支部念願のホームページを開設して、早や一年半が経過しました。日々工夫を重ね掲載していますが、会員の皆さま方には少しでも興味を持って見て頂けているでしょうか。

現在のホームページは、平成十八年十二月二十五日クリスマスの日に公開スタートしました。

ホームページの作成を担当したいきさつは、公開した四ヶ月前の八月下旬の夕刻の電話でした。会社を離れ五年も経過していたので久々の岩さん（社友会・岩

村支部長）の声が懐かしく思いました。岩さんの流れるような喋りで一通り互いが挨拶した後、ホームページ云々で会合があるから出て欲しいとの要請でした。突然の申し入れで一瞬戸惑いながら、これを受けたら大変と思い、色々な理由を並べて断わり続けたが、岩さんの強い懇願に、ついに根負けして取り敢えず会合に出席する旨の返事をしたのが始まりでした。

電話を置いてから、ホームページ作成の会合で何を話し合いするのか？ と思いつつも社友会の活動に無関心で会社の関係者とも長く離れていた事もあり、軽い考えで出席を了解したものでした。

初会合は九月十一日でホームページ委員会と名称が付けれられ出席者は十二名でした。小生と同様に粉川氏も呼ばれ参加していましたが、皆知った懐かしい面々でした。会議の進行に耳を傾けていましたが、内容は栃木支部ホームページ開設に向けての話でした。説明の内容から、相当以前から作成に向け検討を重ねて来た様子が伺えましたが、支部ホームページの試作品がまだ出来ておらず、基礎的な部分の議論のない事が気がかりでした。この状況でこれからどのようにしてホームページを開設して行くのか、少し疑問でしたが、ホームページを作成する実務的な処で難儀していたため、この会合に要請されたことを、此処で察知しました。

栃木支部として、今期の開設計画を予定したこと、支部長としてこの計画達成への願望もあり、社友会本部からも強い開設の要請が有ることも知りました。また従来から検討を重ねてきたメンバーの方々の雰囲気、どうしても開設にこぎつけない、と言う強い意気込みを感じ、これらに飲み込まれてしまいました。

栃木支部として、この時代にホームページくらい開設して社友会本部、東京支部、及び広島支部並みの活動はやらんとあかん！ と言う自分の思いもあり、次の会議時にはホームページのトップページを試作し

て来ることを約束しました。当初の自分の考え方と随分と変わって、栃木支部の活動が他の支部に劣っては、と、協力的になつてゐる事が不思議でした。自分の少しの協力で栃木支部が助かるならと思ったからでした。二回目の会議時に当初約束通り、現在のホームページの原型となる試作デザインを提案し、委員会の了解の下、早々に未公開からアップロードしました。その後、ほぼ三ヶ月間に亘たって委員会の意見を取り入れつつ、改善を繰り返して、遂にクリスマスの日に公開することが出来ました。小生と同時にこの会合に呼ばれていた粉川氏はアドバイザーとして参画されていますが、小生と同じ思いと推察します。彼の委員会メンバーへの積極的な技術指導で、メンバーの全員が現在ではホームページを作成できる腕前となっています。

当初のホームページ委員会メンバーは、そのまま現在に継続し、公開中のホームページの改善はもとより、掲載する情報の収集にも努めています。また日々公開中のホームページの監視にも当たっています。

スタートしてから十ヶ月目にアクセス数が一万回を達成し（上の栃木支部ホームページトップページ一万回記念写真、現在一年半が経ち、アクセス数も順調に推移し、現在では一万五千回以上になりましたが、現在までトラブルもなく安定して公開しています。

今後とも順調にアクセス数が増加してゆくものと思いますが、社友会の情報誌「日光」に次ぐ情報源として、会員の皆さま方により速い情報を、お届けできるように努めて行きたいと考えています。

将来的には郵便でお届けしている書面連絡に変わる連絡手段とならないかと考えています。

このホームページが会員皆さま方の社友会の情報源として、また交流の場として活用いただきたいと思います。今後とも更に楽しく見られるホームページへと改善してゆきますが、皆様方からの情報のご提供をお待ちしております。

SGC活動の様子



遠藤矢板市長を迎え長峰公園周辺の清掃活動



「シャープの森」で草刈り作業を終えての一時

親睦旅行の記念写真



会津若松鶴ヶ城



間欠泉



海ホテル



お座敷列車で東北旅行



シャープサマーフェステェバル・バザー風景